

7水推第1817号
令和8年2月27日

国立研究開発法人水産研究・教育機構
理事長 中山 一郎 殿

農林水産大臣 鈴木 憲和

国立研究開発法人水産研究・教育機構の第6期中長期目標に係る評価
軸・評価の視点について

このことについて。別添のとおり定めたので通知する。

研究開発関係業務に関する評価軸及び指標

第3 研究開発の成果の最大化その他の業務の質の向上に関する事項	
<p>1 研究開発業務</p> <p>(1) 重点研究課題</p> <p>1 適切な資源管理を実現するための研究開発</p>	<p>評価軸1：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究や事業の進捗、成果等が国の方針と適合しているか。 <p>評価指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資源評価結果及び研究開発の成果が国等の施策に寄与する具体的な取組事例 ・さけます資源の個体群維持のために行うふ化放流の状況 ・本中長期目標期間における年次計画の進捗状況 ・海洋調査に係る国内外の研究機関との連携状況 <p>モニタリング指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内外の資源関係会議等への報告書等文書提出件数 ・資源評価調査対象種（又は系群）数 ・MSY 及び MSY に準ずる資源評価対象魚種（又は系群）数 ・MSY ベースの資源評価対象資源の 38 魚種から令和 12 年に 45 魚種程度までの増加に向けた取組状況 ・さけます資源の個体群維持のために行うふ化放流実績 <p>評価軸2：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果や取組が学術研究の進展につながるものとなっているか。 <p>評価指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産資源研究、海洋研究の高度化等に寄与する具体的な取組事例 <p>モニタリング指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文発表件数 ・試資料提供件数 <p>評価軸3：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果や取組が、社会ニーズに適合しているか。 <p>評価指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁海況情報等の発信が社会ニーズに合致した具体的な取組事例 ・さけます回帰率回復に向けた放流後の生残率向上のための飼育手法の高度化とその放流手法の河川ごとの具体的な取組事例 ・分野や組織の枠を超えた柔軟かつ機動的な研究、挑戦的・独創的な研究、先端的な研究成果を取り入れた基盤技術開発の具体的な事例 <p>モニタリング指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁海況情報等の発信件数 ・ウェブサイトにおける漁海況情報等の閲覧数 ・取材・記者レク等情報提供回数

	<ul style="list-style-type: none"> ・民間さけますふ化場等への技術普及、講習会等の実施件数 ・さけます資源の回帰率
<p>(2) 重点研究課題 2 環境変化に適確に対応できる水産業の実現のための研究開発</p>	<p>評価軸 1 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果や取組が養殖業の生産性・収益性の向上及び持続的な水産物生産システムの構築に寄与するものであるか。 <p>評価指標 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養殖業の振興、成長産業化及び問題解決並びに水産物の安定供給に寄与する具体的な成果 ・沿岸・内水面漁業の振興に寄与する具体的な事例 ・漁場及び生育場の環境保全、漁船、漁港、漁場整備等に寄与する具体的な成果 ・本中長期目標期間における年次計画の進捗状況 <p>モニタリング指標 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術指導、講習会、普及活動等の実施数 ・取材・記者レク等情報提供回数 <p>評価軸 2 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究や事業の成果等が国の方針や社会ニーズと適合しているか。 <p>評価指標 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究開発成果が国等の施策に寄与する具体的な事例 ・養殖業成長産業化総合戦略に基づき国が掲げる KPI (令和 12 年に目指す戦略的養殖品目の生産量 (ブリ 24 万 t、マダイ 11 万 t 等)) に寄与する具体的な成果 ・漁場環境の向上並びに水産物の安全、安心、高品質化及び有効利用に寄与する具体的な成果 ・養殖における赤潮被害や大量斃死等、緊急な対応を要する事案に貢献した事例 ・陸上養殖の発展に貢献した具体的な事例 <p>モニタリング指標 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドライン、マニュアル、指針等への成果の反映数 ・現地実証試験実施数 ・各種協議会や行政会議等への参加数、発表数 <p>評価軸 3 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果や取組が国、都道府県及び地方独立行政法人の研究機関、大学等における研究の実用化又は進展につながるものとなっているか。 <p>評価指標 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分野や組織の枠を超えた柔軟かつ機動的な研究、挑戦的・独創的な研究、先端的な研究成果を取り入れた基盤技術開発の具体的な事例

	<ul style="list-style-type: none"> ・科学的知見の深化に寄与する具体的な事例 <p>モニタリング指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部資金の獲得件数、金額 ・論文発表件数 ・共同研究等件数 ・公的機関等からの分析、鑑定等依頼数
<p>(3) 重点研究課題 3 効果的かつ着実な社会実装の推進</p>	<p>評価軸1：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組が国の方針に合致し、産業、経済活動の活性化及び高度化並びに社会的価値の創出に寄与するものであるか。 <p>評価指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産物の安定供給に寄与する具体的な取組 ・漁船漁業の持続的な発展に寄与する取組状況 ・本中長期目標期間における年次計画の進捗状況 <p>モニタリング指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種広報媒体等への掲載数及び取材 ・記者レク等情報提供回数 ・業界関係者等との協議回数 <p>評価軸2：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の方針及び社会ニーズを踏まえ、業界との連携により、実用化又は社会実装に向けた取組となっているか。 <p>評価指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業界と連携した具体的な事例 ・研究開発成果が社会実装へと進展した具体的な事例 ・科学的知見の深化に寄与する具体的な事例 <p>モニタリング指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同研究等件数 ・技術指導、講習会、普及活動等の実施数 ・社会実装に向けて実施した実証試験項目数 ・社会実装に至った研究開発成果の数 <p>評価軸3：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果が、水産関係者、国、地方の事業等に周知され、活用されるようになっているか。 <p>評価指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果の業界等への報告状況 ・成果の水産業界関係、国、地方自治体の事業における活用状況 <p>モニタリング指標：</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報告書等公表件数 ・ 成果の社会実装に向けた漁業者、水産業界、行政、研究機関等における活用件数
<p>3 研究開発マネジメント</p>	<p>評価軸：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究開発成果の最大化に向けた取組が着実に進んでいるか。 <p>評価指標 1：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他機関との連携、共同研究の取組状況 <p>モニタリング指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他機関との連携数（件数、国内・国際） （国内共同研究：120 件以上（5 期実績：122, 137, 141, 128, 120 以上（予定）） （国際共同研究：20 件以上（5 期実績：21, 26, 23, 16, 20（予定）） ・ 知的財産の供与数（5 期実績：54, 56, 58, 50, --） ・ 包括連携協定の件数（5 期実績（令和 6 年度末時点）：14） ・ 研修等の受入件数（人数） ・ 各種委員会への派遣数 ・ 講師等の派遣数 <p>評価指標 2：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究開発情報を国民に積極的に提供しているか。 ・ 広報活動において ICT を積極的に活用しているか。 ・ 知名度向上や研究成果の社会実装に向けて効果的な情報発信を行った取組事例 ・ 国民、業界等との双方向コミュニケーションに取り組んでいるか。 <p>モニタリング指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公表したプレスリリース数、ウェブサイト等による発信数（70 件以上（前期実績：70～81 件）） ・ ウェブサイト等へのアクセス数 ・ シンポジウム、セミナー、講演会等の開催数（30 件以上（前期実績：31～39 件）） ・ 取材、問い合わせ対応数

研究開発関係業務以外の事項の評価の視点及び指標

第3 研究開発の成果の最大化その他の業務の質の向上に関する事項	
2 人材育成業務	<p>評価の視点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産業を担う中核的な人材を育成する教育が持続的に行われているか。 <p>主な定量的指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二級海技士筆記試験受験者の合格率が90%以上確保されているか。 ・水産業及びその関連分野への就職割合が80%以上確保されているか。 <p>その他の指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による教育課程の認定状況 ・一般社団法人日本技術者教育認定機構（JABEE）による技術者教育プログラムの認定状況 ・国土交通大臣による船舶職員養成施設の登録状況 ・海技士養成に貢献した取組状況
第4 業務運営の効率化に関する事項	
業務運営の効率化と経費の削減等	<p>評価の視点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中長期目標（年度計画）に掲げた経費の削減に取り組んでいるか。 ・調達等合理化計画を策定し、着実に実施しているか。 ・各研究所、水産大学の管理部門及び本部の役割分担を明確にした上で組織体制を整備しているか。 ・法人内における適切な情報システムの整備が実施されているか。 ・漁業調査船及び漁業練習船の効率的な運航体制を構築しているか。 ・施設、設備等を計画的に更新・整備し、効率的に運用しているか。 <p>主な定量的指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般管理費の抑制達成度（本中長期期間中、令和7年度予算額を基準として、毎年度平均で少なくとも対前年度比3%の抑制を目標とする。） ・業務経費の抑制達成度（本中長期期間中、令和7年度予算額を基準として、毎年度平均で少なくとも対前年度比1%の抑制を目標とする。） ・調達等合理化計画の数値目標の達成度（各年度目標値の達成） <p>その他の指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設、機械の外部利用件数 ・複数の調査を同一の航海で実施する等機構船を効率的に運航した件数

第5 財務内容の改善に関する事項	
1 収支の均衡	<p>評価の視点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適正な財務管理を行っているか。 <p>その他の指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各年度における収支状況や財務内容
2 業務の効率化を反映した予算の策定と遵守	<p>評価の視点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算計画に従った運営を行っているか。 ・収益化単位の業務ごとに予算及び実績を管理する体制を構築したか。 <p>その他の指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各年度における予算の執行状況
3 自己収入の確保	<p>評価の視点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己収入の確保に向けた取組を着実に実施しているか。 <p>その他の指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受託研究・競争的資金の件数と獲得額・自己収入額 ・自己収入確保に向けた取組状況
4 保有資産の処分	<p>評価の視点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保有資産について、保有の必要性を不断に見直しているか。 <p>その他の指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不要財産となったものは、適切に国庫納付等をしたか。
第6 その他業務運営に関する重要事項	
1 ガバナンスの強化	<p>評価の視点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部統制システムに関する取組は適切か。 ・コンプライアンス推進に関する取組は適切か。
2 人材の確保・育成	<p>評価の視点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材の確保、配置及び育成を適切に実施しているか。 ・新たな組織としての適切な人事評価システムの構築に取り組んでいるか。 ・男女共同参画を推進しているか。 <p>主な定量的指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種研修等の実施数（4回以上（基本研修4回）） <p>その他の指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の採用数（うち女性割合） ・人事交流数

<p>3 情報の公開とセキュリティ対策の強化並びに研究セキュリティ・インテグリティの確保</p>	<p>評価の視点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人情報の積極的な公開を実施しているか。 ・情報セキュリティ対策の取組は適切か。 ・研究セキュリティ・インテグリティの確保への取組は適切か。 ・情報インシデントが発生した場合の対応は適切か。 ・研究の不正行為等の疑いを確認した場合や告発・相談を受け付けた場合の対応は適切か。 <p>主な定量的指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種研修等の実施数（年1回以上） <p>その他の指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種研修等の参加人数
<p>4 環境対策・安全管理の推進</p>	<p>評価の視点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務が環境に与える影響への配慮は十分か。 ・職員や学生の安全衛生管理は適切か。 ・環境負荷低減への取組は適切か。 <p>主な定量的指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウェブ会議実施数（理事会、経営企画会議等の主要な会議の数） ・安全管理に関する業務点検、講習の実施回数